

令和5年度第2回「防府市農林業政策懇話会」 議事録等

■開催日時・場所

令和6年3月15日（金）午前10時00分から午前11時30分まで
防府市役所 1号館3階 南北会議室

■次第

- 1 主要事業等に関する情報提供
・令和6年度農林業に関する当初予算の概要について
- 2 防府市の農林業の活性化に向けての御意見

■配布資料

	資料名	番号
1	令和6年度防府市農林業に関する当初予算（案）の概要	【資料1】
2	農道牟礼小野線整備事業の進捗状況について	【資料2】
3	令和6年度当初予算（案）の概要	【資料3】

■委員等出席者名簿

敬称略・順不同

種別	氏名	所属／品目	出欠
会長	池田 豊	防府市長	出席
農林業関係団体	石丸 和美	山口県農業協同組合防府とくち統括本部本部長	出席
	戸田岸 巖	山口県中央森林組合 組合長	出席
	藤井 伸昌	防府市農業委員会 会長	出席
農業関係者	岡本 拓実	(株)ファーム大道 代表取締役社長	出席
	池田 英雄	畜産	出席
	安村 真喜	施設野菜	出席
農林業の知と技の拠点	笹井 雅之	山口県農林総合技術センター 企画戦略部 部長	出席
やまぐち農林振興公社	井上 興	担い手・新事業支援部 部長	出席
商工業団体	松田 和彦	防府商工会議所 専務理事	出席
流通関係団体	松原 正範	株式会社丸久 執行役員青果部長	欠席
観光関係団体	中谷 泰	防府観光コンベンション協会 会長	欠席
消費者	阿部 幹恵	防府市生活改善実行グループ連絡協議会 会長	欠席
公募	熊安 悦子		出席
	五島 淑子		欠席

■会議録

1 主要事業等に関する情報提供

- ・令和6年度農林業に関する当初予算（案）の概要について
事務局から資料にて説明

2 各委員による意見

- 会長 | 委員の皆さんから御意見を伺おうと思っています。
- A委員 | 農福連携について、3月から農福連携のマッチングサイトを始めた。マッチングサイト「あぐぷく」を立ち上げ、農業者と福祉事業所をマッチングする。防府市では、障害福祉課と連携し、今年2月に大道の農業者がブロッコリー等の袋詰めを依頼し、障害者が丁寧に仕上げた。今後も、市、JA、福祉事業所と連携を進めていきたい。
- 会長 | 農業者、障害者ともにメリットがある。市とJAが一体となって取り組んでいきたい。
- B委員 | 人手不足が大変深刻である。賃金も割高にしないと人が来ない。そういった中で農福連携は有効だが、もう一步踏み込んで、市の職員、JAの職員の農業バイトを認める方向で検討していただけるとありがたい。
- 会長 | 公務員という制度的な制約や農業だけを認めることも難しい。大きな視点で他の産業も含め全体の人手不足対策として、どういったことができるか検討できるのではないかと。
- C委員 | 農福連携を重視している。今、引きこもりの小学生も自分の農園で作業しているが、サフランを広めたいと思っているので、障害をお持ちの方が来られることも期待している。作業はそれほど難しくないので、これがうまくいくようお願いしたい。
- 会長 | 県庁に勤務していた時に、県の農林事務所の方にも協力をもらいながら、ニート対策で畑作業をした。サフランに限らず、農福連携はできるので、枠組みの中で、作業者が生産する喜びを感じていただきたいと思っている。
- D委員 | 人手不足でいえば、コロナショック後は売り手市場だが、相談者は真摯に相談に来られる。受け手のアピールが大事である。いろいろな機会を捉えて、真摯に対応することで、道も開けると思う。
- 会長 | 来年には、土地利用学科を卒業する生徒がいる。市としてもしっかりと取り組んでいきたい。

- E委員 | 県内、県外に限らず短期で人を呼ぶ場合、宿泊するところが必要。また、令和7年度に農大の土地利用学科の卒業生を受け入れる場合、シャワー室も必要なので、事務所となる物件を探している。
- 会長 | 農大の卒業生はぜひ市内の法人に就職してもらいたい。また、農業に限らず、宿舍の問題については、新年度に空き家調査をして、貸してもいいという物件をリストアップする。
- F委員 | 農福連携の情報は来るが、農業は天候に左右されるので、依頼が出しづらい。しかし、人が足りない状況はある。そういったマッチングをどうしたらいいのか悩みどころ。
- 会長 | 農福連携を進めるためには、スケールメリットが必要なので、農業者、福祉事業所からそれぞれニーズを言ってもらって、またマッチングを円滑に進めるための業務のランク付けもしながら、取り組んでいきたい。
- G委員 | 2年前に比べると、取引乳価が10円上がって、確実に恩恵が出ているが、濃厚飼料と粗飼料の価格が円安の影響もあり横ばい。昨年度の決算の6割が餌代を占めていた。国・県・市からの補助金や給付金の支援は助かっている。また、市の堆肥活用推進事業は、とても助かった。堆肥については、耕畜連携がうまくいっている。
鳥インフルエンザが市内で発生したが、ペットの鳥についても届け出がいることを周知してほしい。
- 会長 | 鳥インフルエンザの発生時には、即日リストに上がっている飼い主に注意喚起をし、翌日には石灰を配って回った。
粗飼料については、市にできることには限界があるが、機械については、対応できる制度があるので、要望していただければと思う。
- H委員 | 人手不足について、商業・工業・建設業は、補助金を活用し、DXや設備整備を進めて対応するところはかなり出てきている。外国人労働に頼るということもある。副業については、制度的なところを考えながらいかなければならないと思っている。
- I委員 | 林業も人手不足である。林業指導センターが農業大学校の隣に来たので、農林大学校にしてほしい。
昨今の気象被害の原因の一つは温暖化であり、林業は色々と注目されている。伐って、使って、植えるというサイクルが大事なので、国産材を使った公共施設をお願いしたい。
- 会長 | 改修した国衙のトイレには、大平山で伐採した木を使っている。また、今後、大平山の

公園に、伐採した木を活用した遊具を作ることや、街なかやメバル公園にも木製のベンチを設置していく。長期スパンで循環させていきたい。

J 委員 今年度、農林業の知と技の拠点には、施設見学やイベント等を合わせて約 6,000 名が訪れた。拠点では、即戦力人材の育成、新技術開発、連携交流の 3 本柱とし、重点的に取り組んでいる。

林業の担い手対策として、来年度、林業の社会人研修の体系を見直し、新たに「やまぐち森林・林業未来維新カレッジ」として林業の即戦力人材と林業事業体の確保・育成を図ることとしている。

オープンラボでは、6 次産業化に取り組む農業者等に活用してもらっており、今年度約 100 団体、500 名の利用があった。専門研究員も配置しており、今後もサポートをしていく。また情報発信もしていく。

会長 オープンラボはレベルの高いものとなっている。しっかり PR して、市内、県内の農業者が 6 次産業化に取り組んでもらえたらいい。

C 委員 全国農業新聞で、シナチクの紹介がしてあったが、農地に竹が蔓延って、非農地になることが多々ある。竹を伐採し食材にできればいい。

会長 山口県の竹林面積は全国で 4 番目に多い。竹の有効活用については、発電に利用するなど色々な面から考えていかなければならない。

B 委員 公社を拠点近くへ移転し、公社の機能強化を図り、担い手の確保・育成や耕作放棄地の抑制・解消を目指すため、耕作する業務が出来るよう定款を変更した。今後の公社の取組は耕作放棄地予備軍農地を耕作していき、学校給食の米を提供するという思いを持っている。市の協力を仰ぎたい。

会長 防府市には、拠点がある、公社があるという 2 つの強みを最大限に活かし、土地利用型農業を進めたい。拠点が出来て、この時代であっても農業が変わるということを示していきたい。

D 委員 やまぐち農林振興公社では、6 次産業化にも取り組んでおり、地域特産物を活用した加工品の支援をしてきた。来年度も引き続き、やっていく。また、県内の色々な特産物の情報等も集まってくるので、情報は提供できる。

会長 多くの意見をいただいた。長期に渡るかもしれないが、しっかりと検討していきたい。

閉会